

東谷山周辺のシデコブシ自生地の保全と保護の現状 (続報)

石原 則義

愛知守山自然の会 〒464-0096 愛知県名古屋市千種区下方町7丁目3番地

Conservation of a natural habitat of *Magnolia stellata* around the Mt. Togokusan, Nagoya, Japan (continued)

Noriyoshi ISHIHARA

7-3 Shimokata-cho, Chikusa-ku, Nagoya, Aich 464-0096, Japan

Correspondence:

Noriyoshi ISHIHARA E-mail: norimameobata@yahoo.co.jp

要旨

著者が所属する東谷山湿地群保全の会は、東谷山周辺の湿地群を保全する自然環境保護団体である。当会では他の団体と協働して、東谷山周辺にあるシデコブシ自生地の保全と保護活動を行っており、その現状について石原 (2015) で報告した。本報は、石原 (2015) の続報として、7年後におけるシデコブシの成木調査の結果、保全と保護活動の現状、ならびに2014年から2021年にかけてのシデコブシの生育本数の変化についてまとめたものである。

はじめに

シデコブシ *Magnolia stellata* (Siebold et Zucc.) Maxim. はモクレン科の落葉性小高木で、湿地や谷を中心に生育する日本の固有種である (広木, 2002; 邑田, 2004)。名古屋市守山区上志段味にある東谷山周辺では、湧水がある谷筋や山裾、沢筋、丘陵地斜面からの湧水が供給されている場所での生育が確認されている (図1)。一般的に本種の種子はオレンジ色の皮に覆われているとされているが (糸魚川, 1997)、東谷山のものは朱色の皮に覆われているのが特徴である。国内におけるシデコブシの自生地は東海三県の丘陵地に限られており、岐阜県の東濃・中濃地域、三重県北勢地域、ならびに愛知県の尾張・三河・渥美地域の6地域に約16,000本が認められている (日本シデコブシを守る会, 1996)。本種は、生育地での森林化が進行しており、後継樹の生育できる状況が失われていることから、愛知県のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類、名古屋市版レッドリストでは絶滅危惧

IA類に位置付けられている (名古屋市環境局環境企画部環境企画課, 2020; 愛知県環境調査センター, 2021)。

著者は東谷山の周辺におけるシデコブシ自生地の保全と保護活動を行っており、これに関する報告を石原 (2015) で行った。本報では、石原 (2015) の続報として、



図1. 尾張戸神社参道のシデコブシ

7年後におけるシデコブシの成木調査の結果、保全と保護活動の現状、ならびに2014年から2021年にかけてのシデコブシの生育本数の変化について報告する。

シデコブシの成木調査

東谷山周辺のシデコブシ成木（樹高1.5 m以上と定義）の樹高、幹周、樹冠の広がり、開花数、ならびに果実数を表1に示した。

表1. 東谷山周辺のシデコブシ成木調査結果 成木（樹高が1.5 m以上のもの）

生育地	No	樹形	樹高 (m)	幹周 (cm)	樹冠の広がり (m)				開花数	果実数
					北	東	南	西		
エリア I 上流部	1	双	1.8	44	5.5	0	0	5.5	70-	0
	2	単	2.0	47	0	2.1	5.5	3.5	70-	0
	3	単	1.5	65	0	0	5.5	5.4	70-	0
	4	単	2.9	23	0.7	1.9	3.1	0	70-	0
	5	双	1.5	13	0.4	0.7	1.3	0.9	0	0
	6	双	2.9	25	0	2.7	2.8	0	70-	0
	7	単	8.0	31	0	4.0	4.5	0.3	70-	0
	8	多	1.8	32	0	5.5	1.5	0.6	0	0
	9	双	8.0	44	1.7	4.7	3.4	1.6	70-	0
	10	単	8.0	31	1.3	5.2	2.6	0.4	70	0
	11	単	2.6	22	0.8	0.9	1.0	1.0	0	0
	12	双	2.6	14	1.2	0.9	1.5	3.8	4	0
	13	単	5.0	17	3.5	2.1	0.5	1.0	50-70	0
	14	単	6.5	24	0	0	1.6	3.0	10-30	0
	15	単	1.8	22	0.8	0.5	1.1	0.8	0	0
	16	単	2.3	55	5.6	6.3	1.1	0	1	0
	17	単	1.5	9	0	2.2	2.3	0	0	0
	18	双	8.0	34	4.9	0	7.0	9.1	70-	0
	19	単	4.2	29	6.8	3.4	1.5	1.6	10-30	3
	20	単	3.5	40	0.7	0.5	1.0	0.8	0	0
	21	単	1.9	28	0.6	0.3	0.2	0.9	0	0
	22	単	4.0	22	0.9	1.1	1.2	0.7	0	0
	23	単	4.0	19	0.8	0.9	0.7	0.8	0	0
	24	単	3.3	16	0.8	0.8	0.5	1.0	0	0
	25	単	1.8	5	0.4	0.5	0.5	1.9	0	0
	26	単	2.1	12	1.2	0.2	0.7	1.4	0	0
	27	単	4.5	10	1.1	1.6	1.3	0.6	10-30	0
	28	単	3.6	6	0.8	0.9	0.9	1.2	10-30	0
	29	双	5.0	15	1.7	1.2	2.8	1.3	7	0
	30	単	1.5	1	0.4	0.7	0.6	0.1	0	0
エリア I 下流部	31	単	1.7	3	1.2	0.8	0.5	1.2	0	0
	32	単	5.0	22	1.5	2.1	1.4	0.9	30-50	8
	33	多	4.5	32	2.0	1.7	1.4	1.4	30-50	2
	34	単	3.5	7	0.8	0.8	1.2	1.4	0	0
	35	単	4.5	46	3.7	7.4	0.6	2.2	50-70	10-30
	36	単	7.5	28	2.8	2.9	1.3	0.2	70-	4
	37	単	1.7	11	2.7	1.3	0.7	2.0	0	0

生育地		No	樹形	樹高 (m)	幹周 (cm)	樹冠の広がり (m)				開花数	果実数
						北	東	南	西		
エリアⅠ 下流部		38	単	4.2	24	0.4	0.5	0	5.3	50-70	5
		39	単	4.6	22	3.0	1.8	1.5	3.1	70-	8
		40	双	3.2	11	0.9	2.1	1.2	1.1	0	0
		41	双	9.0	68	5.6	3.6	3.8	3.6	70-	10-30
		42	単	3.8	14	0.9	2.0	2.2	0	70-	10-30
		43	単	5.0	20	2.2	3.0	2.5	1.1	10-30	2
		44	単	3.3	11	3.7	2.9	0.7	0.5	0	0
		45	単	3.9	21	3.0	0.3	0.7	0.8	10-30	3
		46	単	3.6	20	5.0	3.0	1.3	0.7	30-50	6
		47	単	3.2	14	3.6	1.9	0.4	0.4	6	0
		48	単	3.6	9	1.0	0.1	1.1	1.6	3	0
		49	単	4.0	25	6.4	0.5	0	1.8	10-30	4
		50	単	11.0	78	4.0	7.2	2.2	1.5	70-	5
		51	双	11.0	64	2.2	9.2	2.8	0.5	70-	5
エリアⅡ・南西湿地・Y湿地	北島	52	単	1.7	3	0.5	0.4	0.8	0.7	7	0
		53	単	1.5	4	0	0.4	1.8	0.2	0	0
	中湿地	54	単	1.5	9	0.5	0.5	0.8	0.1	10-30	0
		55	単	2.3	6	1.0	1.0	0.4	0.4	50-70	10-30
		56	単	1.6	5	1.2	0.6	0.2	0.8	10-30	7
		57	単	2.5	7	1.2	1.4	1.1	1.0	2	1
		58	単	2.2	8	1.3	0.8	0.4	1.1	10-30	5
		59	単	1.7	3	0.3	0.5	0.5	0.2	10-30	7
		60	双	2.0	5	0.5	0.6	0.7	0.4	10-30	5
		61	単	1.7	5	0.5	1.1	1.0	0.9	30-50	2
		62	双	1.6	3	0.4	0.6	0.6	0.4	3	2
		63	単	1.5	2	0.3	0.5	0.4	0.7	5	2
		64	多	2.5	7	1.0	1.1	1.0	0.8	10-30	14
		65	多	4.2	28	2.8	2.8	1.6	1.2	70-	30-50
		66	単	3.4	22	1.0	3.6	2.3	0.8	30-50	10-30
		67	単	1.7	2	0.4	0.5	0.5	0.4	1	0
		68	多	4.0	12	0.9	0.6	0.7	0.8	70-	2
		69	双	1.7	3	0.5	0.8	1.1	0.6	0	0
		70	多	4.5	28	2.1	4.6	3.4	1.1	50-70	4
	西湿地	71	単	3.2	23	0.5	3.6	1.1	0	70-	3
		72	単	2.5	12	1.1	1.8	0	0.2	10-30	2
	北湿地	73	多	6.0	28	1.7	2.7	4.7	1.9	70-	30-50
		74	単	3.9	27	0	0	4.5	3.7	10-30	0
		75	単	2.7	1.4	0.4	3.7	3.7	0.4	70-	10-30
		76	単	2.1	8	0.2	0.3	2.1	1.5	10-30	2
		77	単	4.2	10	0.4	1.0	1.7	1.6	70-	0
		78	双	8.5	52	0	2.8	6.5	3.8	70-	10-30
		79	双	8.5	31	0	1.0	5.6	4.5	1	0
		80	単	2.8	14	0	0	3.1	3.0	10-30	2
		81	双	4.0	30	1.0	2.9	3.1	1.0	70-	50-70
		82	単	6.0	51	0.5	4.0	5.0	1.7	5	0
		83	双	2.9	9	0.1	0.8	1.7	3.6	10-30	2

生育地		No.	樹形	樹高 (m)	幹周 (cm)	樹冠の広がり (m)				開花数	果実数	
						北	東	南	西			
エリアⅡ・南西湿地・Y湿地	北湿地	84	単	3.2	8	0.2	0.8	2.8	0.7	9	0	
		85	単	3.8	10	0	0.6	2.5	0.6	10-30	2	
		86	多	6.7	27	0.9	2.2	4.1	1.5	70-	30-50	
		87	単	3.2	12	0.2	1.1	2.1	0.9	70-	10-30	
	中湿地	88	多	3.8	21	1.5	1.8	1.2	2.1	70-	10-30	
		89	双	3.3	22	0.5	5.0	4.6	0.3	70-	30-50	
		90	多	8.5	42	1.2	0.9	2.2	2.4	70-	6	
		91	多	7.0	32	1.3	1.3	3.5	5.0	30-50	4	
		92	多	3.1	10	0.9	1.1	1.3	1.4	70-	6	
		93	双	2.5	18	0.7	0.9	1.1	1.1	70-	10-30	
		94	双	5.1	29	2.3	1.2	2.0	3.8	70-	50-70	
		95	双	3.1	11	1.5	1.5	2.7	1.5	70-	10-30	
		96	多	2.7	10	1.1	1.3	2.1	1.6	70-	10-30	
		97	単	2.6	8	0.9	0.8	0.8	1.0	30-50	0	
		98	双	1.7	2	0.2	0.1	0.6	0.2	10-30	1	
		99	双	3.2	11	0.3	0.2	1.0	1.5	0	0	
		100	単	4.0	14	0.7	1.1	0.9	1.2	50-70	10-30	
		101	多	2.4	13	0.5	0.6	2.6	1.9	0	0	
		102	多	4.0	15	0.9	0.5	1.1	1.4	70-	10-30	
		103	双	6.0	18	0.5	1.0	1.9	1.2	30-50	4	
		104	単	1.5	5	0.5	1.2	0.9	0.4	30-50	8	
		西湿地	106	双	1.8	5	0.2	0.5	1.1	0.6	70-	10-30
			107	多	3.0	7	0	0.2	1.4	1.8	50-70	1
			108	多	6.0	21	0	0.8	3.5	2.0	70-70	9
	東湿地	109	双	5.0	18	1.8	1.7	2.5	1.7	70-	50-70	
		110	単	2.5	10	1.5	1.5	0.6	1.0	70-	10-30	
		111	多	3.7	32	1.9	2.1	0.9	1.4	10-30	1	
		112	単	7.0	29	3.6	2.3	0.8	3.3	70-	10-30	
	南湿地	114	多	6.0	47	1.4	1.4	5.5	8.0	70-	30-50	
		115	双	6.0	25	1.5	1.0	2.0	2.2	70-	10-30	
		116	多	2.0	16	0.6	6.3	0.6	1.3	30-50	4	
		117	多	2.5	28	0.6	1.4	1.0	1.6	10-30	2	
		118	双	2.8	18	0.4	0.7	1.3	1.6	50-70	3	
		119	単	5.5	45	2.8	1.3	3.3	3.7	0	0	
		120	双	2.2	24	0.6	0.8	1.7	0.5	10-30	6	
		121	双	3.6	26	0.8	1.1	0.6	1.0	10-30	6	
		122	双	6.5	47	1.1	0.3	2.2	3.8	10-30	1	
		123	単	3.0	14	0.7	0.6	1.7	1.0	10-30	4	
		124	多	3.8	24	0.7	0.7	1.1	0.3	10-30	6	
		125	多	1.9	3	0.7	0.5	0.6	0.8	10-30	4	
		126	多	5.5	12	1.6	1.0	2.0	2.2	70-	5	
エリアⅢ (尾張戸神社参道から 右手脇に入った谷筋)		127	双	6.0	24	6.6	1.2	0.2	0.9	0	0	
		128	単	6.0	37	3.4	0	0	4.7	0	0	
		129	双	8.0	25	4.2	2.5	0.6	0.7	0	0	
		130	双	3.8	24	0.4	0.2	0.4	1.9	0	0	

生育地	No.	樹形	樹高 (m)	幹周 (cm)	樹冠の広がり (m)				開花数	果実数
					北	東	南	西		
エリアⅣ (C湿地周辺)	131	単	10.0	76	5.5	5.6	0.4	2.4	70-	10-30
	132	双	10.0	94	4.2	0.2	2.8	1.2	70-	10-30
	133	単	2.3	2	1.1	0.8	0.9	0.9	0	0
	134	多	5.5	55	0	4.8	5.0	0.9	70-	0
エリアⅤ (A湿地周辺)	135	単	4.5	12	1.3	0.7	0.5	1.5	10-30	4
	136	双	4.0	18	1.1	0.5	2.1	3.0	10-30	6
	137	多	7.0	35	3.7	0.9	0.1	4.7	70-	10-30
エリアⅥ (NHK湿地)	138	双	4.3	18	0	1.7	3.4	2.1	70-	70-
	139	単	1.9	3	0.6	0.3	0.5	0.6	0	0
	140	単	6.0	14	1.0	0	0.2	1.3	0	0
	141	単	1.5	3	0.4	0.5	0.4	0.4	0	0
エリアⅦ (大矢川左岸)	142	単	2.8	8	1.8	1.5	1.7	1.3	0	0
	143	双	2.5	3	0.5	0.4	0.8	0.7	0	0
	144	多	10.0	84	3.6	2.6	3.5	5.0	30-50	10-30
	145	多	10.0	67	5.0	5.0	0.5	0.4	70-	10-30
エリアⅧ (大島造園前の谷筋)	146	単	8.7	70	5.8	0	0	9.6	10-30	0
	147	単	6.5	30	3.9	1.4	2.0	3.9	10-30	0
	148	単	5.0	55	7.5	0	0	4.8	70-	10-30
	149	単	4.0	45	5.1	0	0	4.6	70-	10-30
	150	多	1.5	38	6.8	0	0	3.9	10-30	0
	151	単	4.5	52	0	0	3.9	5.3	10-30	0
	152	単	5.5	27	0	0.9	5.4	2.2	10-30	0

シデコブシの生育エリアと各エリアにおける保全活動の状況

東谷山周辺に自生するシデコブシは、エリアⅠからエリアⅧまで8つのエリアに分けられている（図2）。エリアⅠは、東谷山の南斜面の尾張戸神社参道沿いの沢筋にある湿地である。エリアⅡは中央に中島があり、その両側に谷筋があることから通称「Y湿地」と呼ばれていたが、東谷山の南西側に位置していることから、新たに「南西湿地」と呼ぶようになった。エリアⅢは、東谷山の南斜面の尾張戸神社参道から右手脇に入った谷筋である。エリアⅣは、志段味・水野線沿いにあるC湿地周辺である。エリアⅤは、愛知用水沿いにあるA湿地の周辺である。エリアⅥは、道路を隔ててNHKの敷地に隣接していることから、通称「NHK湿地」と呼ばれている場所である。エリアⅦは、大矢川上流域の左岸である。エリアⅧは、「大島造園」前の谷筋である。なお、エリアⅣおよびⅤと隣接した場所に、A湿地とC湿地と呼ばれる湿地も存在しているが、筆者が東谷山周辺の湿地で保全に関わり始めた2000年初頭には既にこの

呼称で呼ばれていたため、その由来は不明である。

エリアⅠ、エリアⅡ、ならびにエリアⅥにおけるシデコブシの生育と保全活動の状況について、以下に報告する。

1) エリアⅠ（東谷山の南斜面の尾張戸神社参道脇の沢筋の湿地）

1993年の秋に「名古屋湿地調査会」が東谷山の南斜面の尾張戸神社参道脇の沢筋のシデコブシ調査をした際、上流部で100本、下流部で30本を確認した。この本数には幼木（樹高1.5 m未満と定義）も含まれている。なお、この沢筋の上の伏流部にも2本が自生しており、計132本が確認されていたが（日本シデコブシを守る会、1996）、本数の調査がなされて以降、15年間は放置されたままになっていた。その後、2007年3月に三菱電機名古屋製作所が「守山自然ふれあいスクール実行委員会」の例会に出席した際、社会貢献事業を行うためのパートナーを探していたため、筆者が所属する「愛知守山自然の会」が協力を申し出た。その結果、2008年4月から両者が協働して、東谷山の南斜面の尾張戸神社参道脇の沢

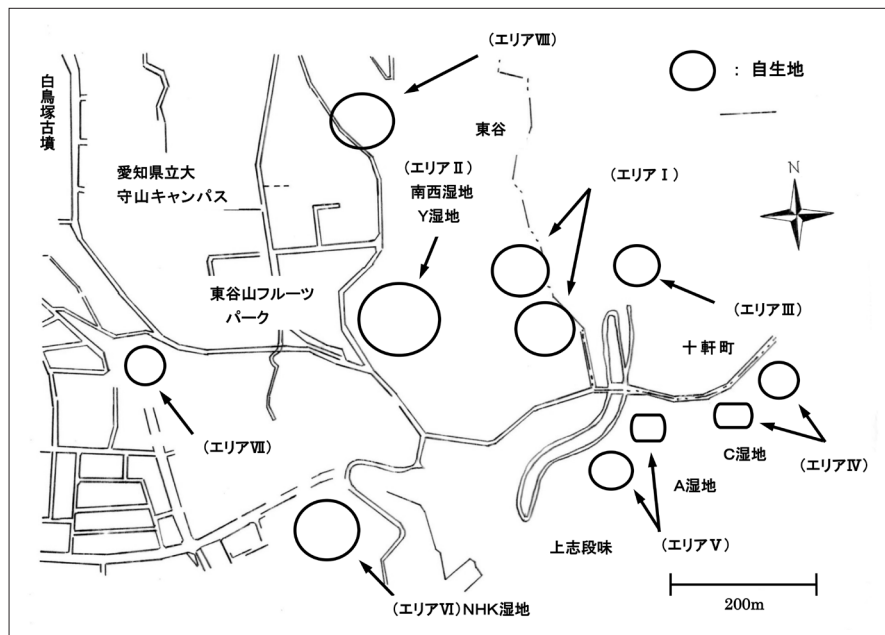


図2. 東谷山周辺に自生するシデコブシの分布図

筋における保全作業が開始された。この活動では、まず15年以上前から不法投棄されていた家電製品や建設廃材などの処理を行った。次に、沢筋に生育するシデコブシに日光が当たるよう、コナラなどを伐採した。さらに、沢筋にある湿地に人が踏み込まないように、侵入防止用のロープを設置した。その上でネザサを刈り、効率よく整備が出来るよう、伐採した樹木を利用して歩道の階段や丸太橋を設置するなどの歩道整備を行った。3年間にわたって協働して保全作業を続けた結果、三菱電機名古屋製作所が森づくりや湿地づくりに関する手法に習熟したため、単独で活動を行えるようになった。

東谷山の南斜面の尾張戸神社参道脇の沢筋の上流部では、1993年にはヘビノボラズ、ハルリンドウ、カキラン等の生育が確認されたが（日本シデコブシ守る会、1996）、現在はショウジョウバカマ、シマジタムラソウ、クロミノニシゴリ、スズカカンアオイ、ゼニバサイシンの生育が見られる程度である。また、沢筋の近くではヒノキの人工林が大きく育ち過ぎ、沢筋には日光が入りにくくなっている。その下流部にもヒノキの人工林があるが、日光を大きく遮る程ではない。沢筋の近くは少し乾燥気味でネザサが侵入しているため、今後何らかの対策が必要であると考えられる。

2) エリアII（南西湿地（旧. Y湿地））

2011年4月に、三菱電機名古屋製作所、愛知県自然環境課、県有林事務所、水源の森と八竜湿地を守る会、ならびに愛知守山自然の会の有志からなる「東谷山湿地群保全の会」が発足した。また、この会を立ち上げる際に、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会・守山自然ふれあいスクール実行委員会にも呼びかけを行った。このエリアではシデコブシなど希少種が生育しているため、この会が発足する以前にもいくつかの自然を守る会が保全を試みていたものの、恒常的な保全には至らなかった。また、2008年4月から、尾張戸神社の参道脇の沢筋で継続的に行われている保全作業が愛知県自然環境課の知るところとなり、2010年4月に東谷山一帯が愛知県の自然環境保全地域の指定を受けることとなった。

「東谷山湿地群保全の会」は、発足の2か月程前（2011年2月）から活動を開始した。まずは、湿地全体を覆いシデコブシに影を落としている中湿地のハンノキなどを伐採した。続いて、東湿地のコナラなどの伐採、北湿地の森を明るくするためのクロバイの伐採やネザサ刈りを行った。さらに、中島を覆っていたツル植物やネザサを除去し、アラカシやヒサカキ、イヌツゲなどを間引きした結果、湿地全体が見渡せるようになった。

2012年1月からは、森林班と湿地班に分かれて保全を

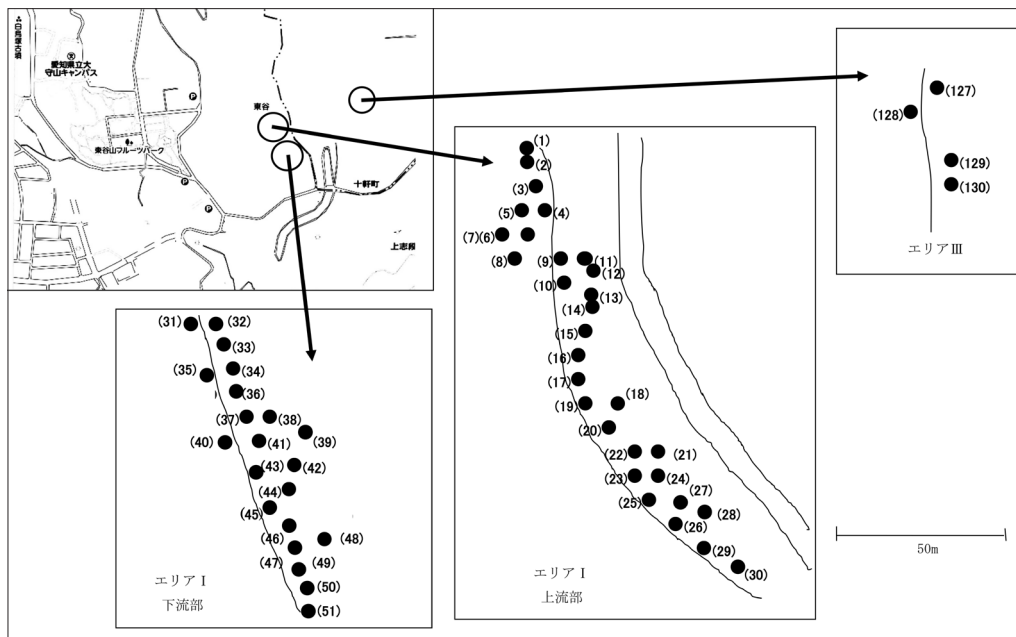


図3. エリア I および III エリアにおけるシデコブシの位置

継続した。森林班は、中島内とその周辺のハンノキやコナラなどの伐採、南湿地のハンノキの伐採などを行った。湿地班は、西島に隣接して日光を遮っているコナラを始め、ソヨゴやヒサカキ、アラカシなど常緑樹の伐採を行った。その結果、樹木の蒸発散量が減り、集水域の地下水量の低下を防ぐことになっただけでなく、湿地内の照度を上げることに成功した。冬季には湿地班が湿地に入り、ネザサ、チゴザサ、アブラガヤ、ヌマガヤの刈り取りを行った。その結果、湿地内の照度が上がり、シラタマホシクサの生育範囲の拡大やシデコブシの幼木の生長が見られた。照度が上がったことで、休眠中の種子の発芽を促し、人の手が加わったことで湿地の状態が維持されていると考えられる。

3) エリア VI (NHK湿地)

2010年11月に、愛知守山自然の会の会員で、湿地の近くに居住している鹿住氏が、単独で保全作業を始めた。2012年1月からは同会の他の会員が作業を手伝うようになり、照度不足と乾燥化を防ぐために湿地内の中流域にあるコナラやアラカシを伐採した。さらに、シデコブシの幼木にも日光が照射するよう、ソヨゴの伐採やヌマガヤなどの下草刈りを行った。2013年9月からは、このエリアが東谷山湿地群保全の会による活動場所となったた

め、毎月作業が行われることとなり、保全に関わる人員が増加した。また、ソヨゴやコナラなどの伐採やヌマガヤなどの下草刈りによって、上流域、中流域、下流域においてシラタマホシクサの生育範囲が広がっただけではなく、上流域においてソヨゴなどを伐採したことにより、湿地部への湧水量が増加した。谷筋で生育するシデコブシについては、周辺に遮蔽物がないために照度が十分あり、湧水量も豊富なことから、今後の生育状況が楽しみである。

2014年から2021年にかけてのシデコブシの生育本数の変化

2014年5月から9月にかけて、東谷山周辺のシデコブシの自生地において生育する本数を正確に把握するため、成木に名札をつけて記録する試みを開始した。ただし、株立ちで生育する個体については、多幹個別幹周の太いものから順に5本までを記録し、これより細かいものは記録しなかった。この時に確認された本数は、単木が74本（50%）、双本が31本（21%）、株立ちが43本（29%）の計148本であった（石原，2015）。2014年と2021年の東谷山周辺における各樹高のシデコブシの本数を図7に示した。今回、2021年3月から9月において同様の調査を行った結果、計152本が確認され、その内訳は1.5 m以上

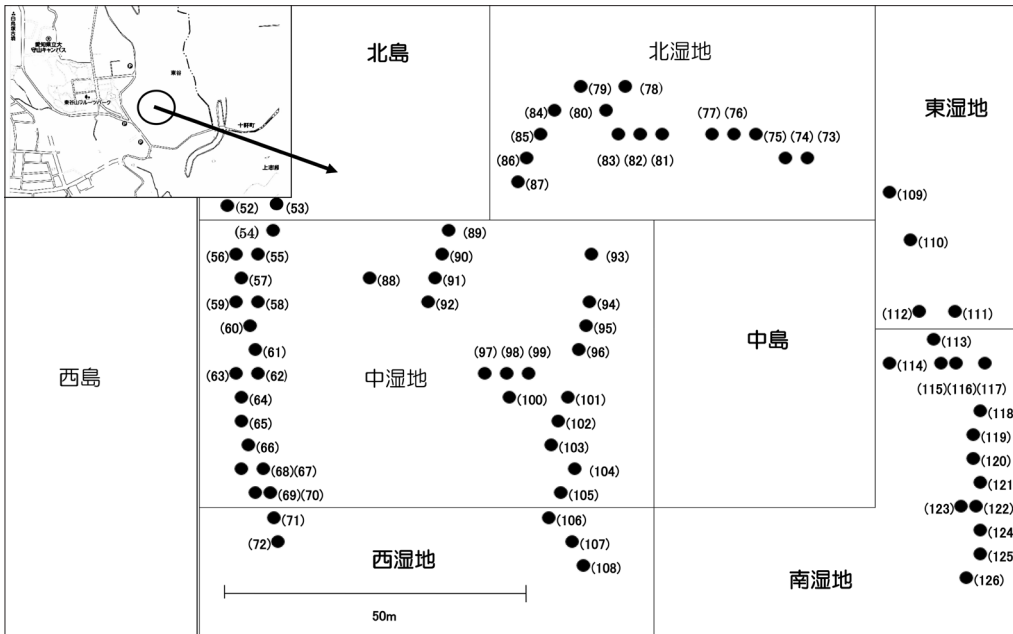


図4. エリアⅡ（南西湿地・Y湿地）

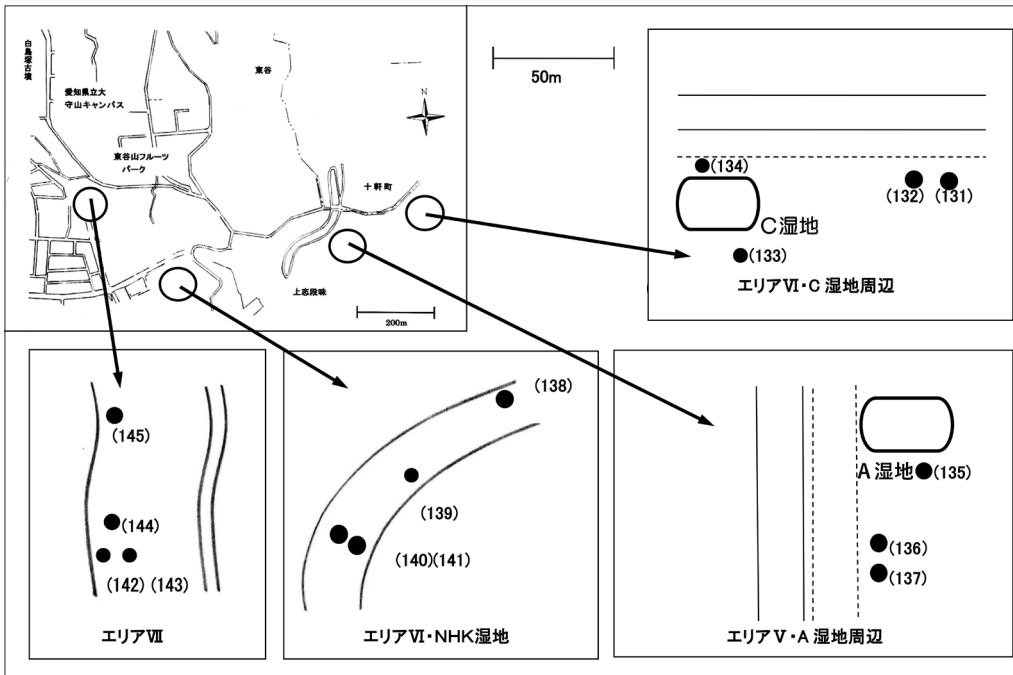


図5. エリアⅣ, エリアⅤ, エリアⅥならびにエリアⅦにおけるシデコブシの位置

2 m未満が29本, 2 m以上4 m未満が60本, 4 m以上6 m未満が31本, 6 m以上8 m未満が16本, 8 m以上が16本であった(図7). この7年間で幼木から成木に生長した樹木が20本近く見られ, また幼木についても30本近くが新たに生育していた. その一方, 2021年の調査において, 樹高の高い樹木が減少する傾向が見られたが,

その原因は樹高が高い巨木が自重を支えきれずに倒木したり、枯死したりする例（図8）が多数見られたためと考えられた。

2014年から2021年にかけての東谷山周辺におけるシデコブシの本数の変化を、エリアごとに比較検討した。エリアIでは、2014年の調査時には上流部が26本、下流部

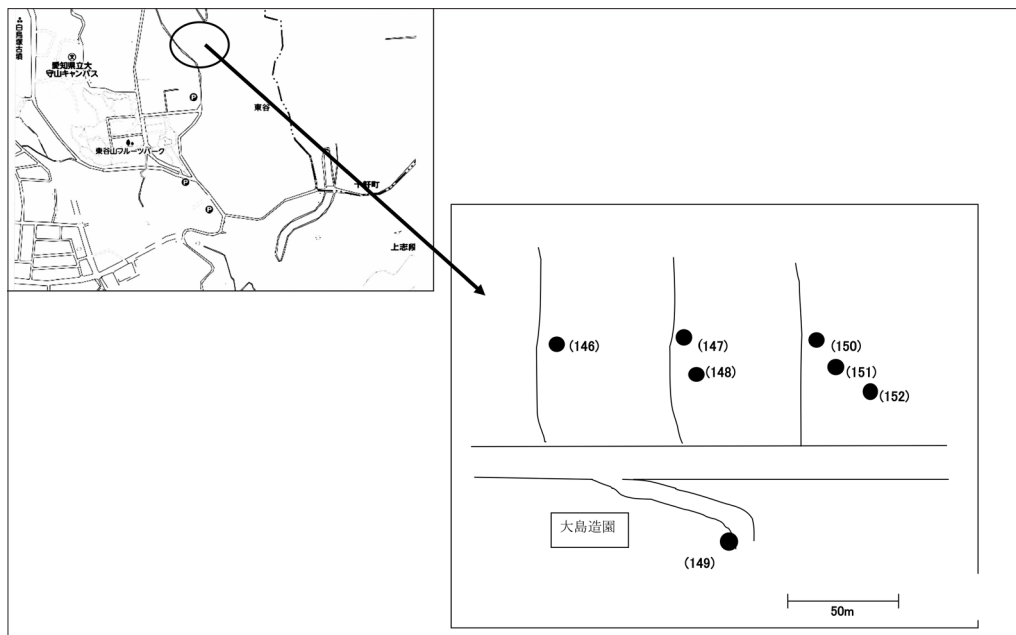


図6. エリアⅦ「大島造園」の前の谷筋

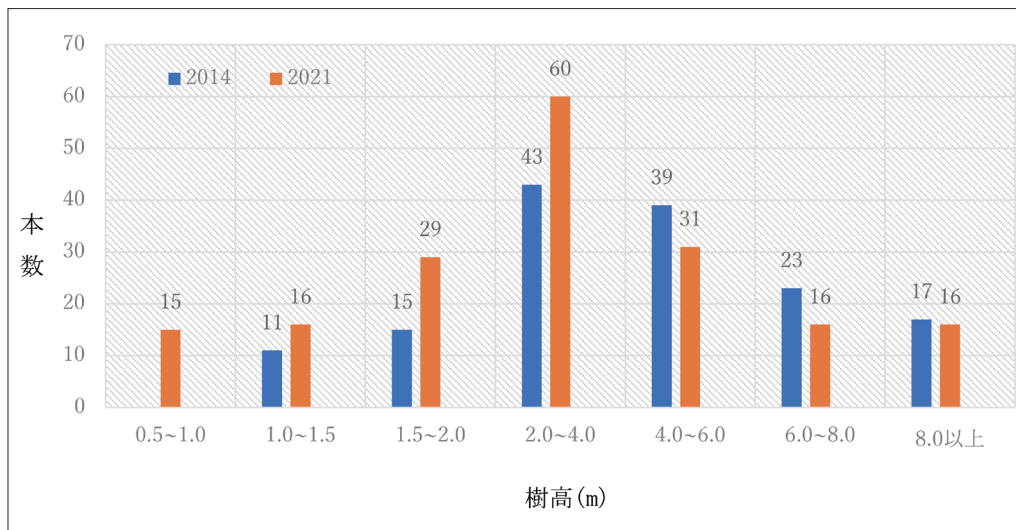


図7. 2014年および2021年における各樹高のシデコブシの本数の比較

が15本の計41本であったが（石原，2015），今回の調査では上流部が30本，下流部が21本の計51本であった（図3）。この7年間で枯死した樹木はあったものの，幼木から成木となった樹木が7本はあったと考えられる。ただし，幼木については生育が見られなかった。エリアIIでは，2014年の調査時には84本であったが，今回の調査では74本が確認できた（図4）。この7年間で枯死した樹木はあったものの，幼木が30本近く育っているのが確認されたため，次世代への更新が順調に行われていると

考えられた。エリアIIIでは，前回の調査時には6本であったのが，今回の調査では4本に減少しており（図3），その原因は枯死によるものであった。エリアIVでは，前回の調査時には2本であったのが，今回の調査では4本に増加していた（図5）。このうち1本は幼木が成木へと成長したためで，残りの1本については未計測である。また，4本のうちの1本（No.132：表1）は樹周が94 cmあり，東谷山周辺では最大の樹木である。エリアVでは，前回の調査時には2本であったのが，今回の調



図8. 尾張戸神社の参道脇の沢筋で枯死していたシデコブシ



図10. エリアⅡで見られたシデコブシの果実



図9. 中島で生長するシデコブシの幼木（2021年11月1日撮影）



図11. エリアⅥ（138）のシデコブシ

査では3本に増加していた（図5）。なお、新しく加わった1本については、幼木が成木へと生長したものである。エリアⅥでは、前回の調査時には3本であったのが、今回の調査では4本に増加しており、上流域が2本、下流域が1本であり、中流域の1本は幼木が成木へと生長したものであった（図5）。エリアⅦでは、前回の調査時には2本であったのが、新しく2本が幼木から成木へと生長したため、今回の調査では4本に増加していた（図5）。エリアⅧでは、前回の調査時には8本であったのが、今回の調査では7本に減少していた（図6）。減少の原因は、枯死や自重を支えきれなくなったの倒木であった。

今後の課題

東谷山周辺はシデコブシ自生地として大きな群落であ

り、シデコブシの天然更新がされている場所でもあることから、名古屋市内のシデコブシの保護上、極めて重要な自生地と言える。エリアⅠでは、三菱電機名古屋製作所が保全作業を続けている。上流部に自重で倒れたシデコブシが重なり合っているため伐採が必要であるが、沢筋であるためにその作業が困難となっている。幼木も見られないため、これが育つように下草のネザサを刈り取ってやる必要がある。また、シデコブシへの照射を遮っている樹木もあるため、これらへの対策が必要である。さらに、シデコブシの花は咲いているものの、結実がほとんど見られないため、次世代への更新が懸念される。エリアⅡでは、湿地にチゴザサが繁茂し、シデコブシの林床を脅かしていた。そのためシデコブシの幼木と成木に日光が照射するように下草刈りや間伐を心掛けてきた結果、今回の調査において幼木の生育が見られた。また、

中島でも幼木が生育しており (図9), 花の多さに比べると結実が少ないようにも思われるが, 中には多数結実しているものも見られた (図10). エリアIIIでは, 人の手入れが行き届いていないために風の通りが悪いという問題がある. また, 谷筋を明るくするためには, 周囲の樹木を伐採する必要があることに加えて, 立ち枯れの除去や倒木の後片付けも急務であると考えられる. エリアIVでは, フェンス内でシデコブシが生育しており, 環境が良いことから大きく育っている. 一方, シデコブシ以上に大きく生長しているコナラがあり, シデコブシへの照射を妨げている. また, シデコブシにツル植物が絡まったり, 林床がネザサに覆われていたりするため, 今後これらの状況を改善していきたい. エリアVでは, 活動が開始された2004年頃から2~3年に一度の頻度でシデコブシに絡まっているツル植物を取り除いたり, 周囲の樹木を間伐するなどして生長を見守っている. エリアVIでは, シデコブシ (図11) の林床のネザサを刈り, 日光が入りやすくなるように間伐をしていきたい. エリアVIIではシデコブシが断崖の傾斜地にある. 不透水層から浸みだしている湧水のお陰で, シマジタムラソウ, ミズギボウシ, ゼニバサイシンなどの希少種が育っている. その一方で, 宅地造成開発が近くまで進んでおり, 今後の湧水への影響が懸念される. エリアVIIIでは, 北西側の谷筋は倒木が目立っていたため, 鬱蒼としている場所から伐採を試み, 倒木の後片付けを行った. 中央の谷筋についても定期的な手入れが行われてきたが, 2020年の前半以降はコロナ禍で活動が休止状態となってしまったため, 風通しが悪くなっていた. また, 南東側の谷筋は人の手入れが入っていないため, 立ち枯れや倒木もあり, 風通しが悪く, 森が荒れているため, 立ち枯れの除去や倒木の後片付けが急務であると考えている.

最後に, 東谷山周辺のシデコブシを“郷土の宝”として次の世代に残していくことが, 私たち保全をするものの使命であると考えている. 人の手を入れなければ, 名古屋市からシデコブシが絶滅する可能性も考えられる. 今後もみんなで手を取り合って, シデコブシを含む希少種を守っていきたい.

謝辞

本原稿をまとめることができたのは, 愛知守山自然の会の柳本光義氏, 故中村鎮雄氏を始め, 山田 厚氏, 東谷山湿地群保全の会, 三菱電機名古屋製作所が協働して, 長年にわたってシデコブシの保全作業を続けたお陰である. シデコブシが縁で繋がり, 保全・調査を通じて支えて頂いた方がいたからこそまでくることができた. これもひとえに, 愛知守山自然の会の方々, 東谷山湿地群保全の会の方々, 愛知県自然環境課の方々, 県有林事務所の方々, 家族などのお蔭であり, 深く感謝する. 最後に, 本稿を発表する機会を与えていただいた「なごや生物多様性保全活動協議会」の皆様, ならびに執筆について助言を下さった「なごや生物多様センター」の職員の皆様にお礼を申し上げる.

引用文献

- 愛知県環境調査センター. 2021. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020-植物編-. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, 810pp.
- 広木詔三. 2002. 里山の生態学. 名古屋大学出版会, 名古屋, 354pp.
- 石原則義. 2015. 東谷山周辺のシデコブシ自生地 of 保全と保護の現状. なごやの生物多様性, 2: 53-64.
- 糸魚川淳二. 1997. いまなぜシデコブシか. 日本の科学者, 1: 42-46.
- 名古屋市環境局環境企画部環境企画課. 2020. 名古屋市版 レッドリスト2020. 名古屋市環境局環境企画部環境企画課, 名古屋, 26pp.
- 日本シデコブシを守る会. 1996. シデコブシの自生地. 日本シデコブシを守る会, 岐阜, 217pp.
- 邑田 仁. 2004. 原色樹木大図鑑. 北隆館, 東京, 894 pp.